



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

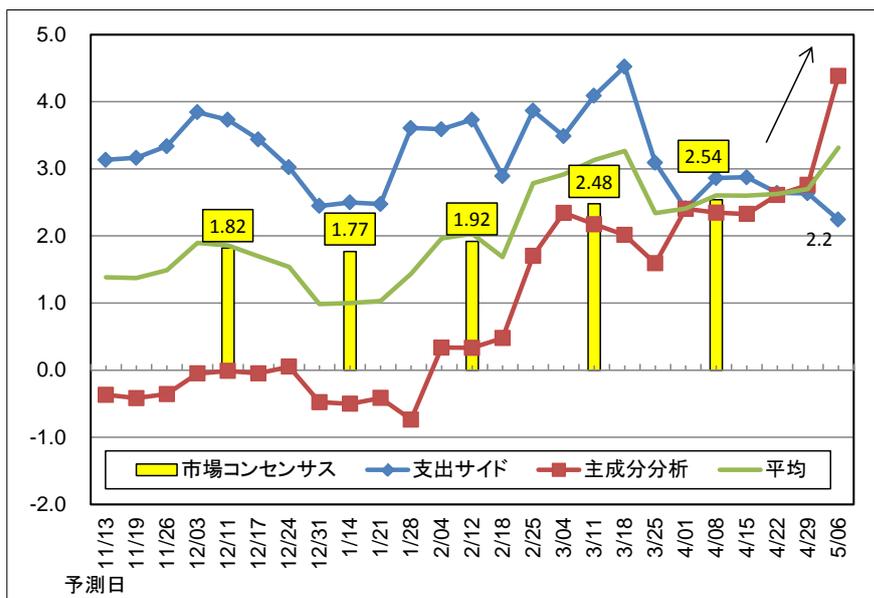
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年5月6日)

ポイント

- ▶先週(4/29-5/3)は統計発表が集中、1-3月期 GDP 推計に必要な基礎データの大部分が利用可能となった。
- ▶予測を要約すると、民間需要のうち、民間最終消費支出の強さが目立ち、民間住宅は拡大のスピードがやや減速、民間企業設備は小幅ながら拡大。また民間企業在庫品増減は引き続きマイナスが続く。
- ▶今週の予測では3月の消費総合指数が反映されていない。そのため、支出サイドモデルは、1-3月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+2.2%と予測を小幅下方修正した。
- ▶民間住宅、民間企業設備、民間企業在庫品増減の予測値が先週から下方修正されたためである。
- ▶一方、主成分分析モデルには好調な3月の全世帯家計消費支出の結果が反映されており、年率4.4%という高い成長率を予測。3月の消費総合指数も高い結果が予想されるため、来週の支出サイドモデルは3%を超える高い成長率が期待できる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年1-3月期(%, 前期比年率換算)



<好調な民間最終消費支出により、1-3月期は3%を超える実質経済成長を実現する可能性が高い>

先週(4/29-5/3)は統計の発表が集中し、4月の新車販売台数、財政対民間収支、3月の鉱工業生産指数、労働力調査、毎月勤労統計、家計調査報告、商業販売統計、建築着工統計及び2月の建設工事費デフレータが更新された。これらは、民間住宅、民間企業設備、民間企業在庫品増減、公的企業在庫品増減及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

16日公表の1-3月期 GDP1 次速報値推計に必要な基礎データの大部分が発表されたことになる。予測を要約すると、民間需要のうち、民間最終消費支出の強さが目立ち、民間住宅は拡大のスピードがやや減速、民間企業設備は小幅ながら拡大する。また民間企業在庫品増減は引き続きマイナスが続きそうである。

3月の建設工事費予定額(居住用)は2ヵ月ぶりの前月比マイナス。このため1-3月期の実質民間住宅の予測値は前期比+0.7%と小幅の増加にとどまった。3月の資本財出荷指数も2ヵ月ぶりのマイナスとなったが、1-3月期は3期ぶりの前期比プラス。このため、同期の実質民間企業設備の予測値は同+0.2%と小幅ながらプラスが予測されている。

民間最終消費支出の予測には消費総合指数が用いられており、3月値の発表は8日に予定されていることから、今週の予測には実績値が反映されていない。そのため、今週のCQM(支出サイドモデル)は、1-3月期の実質 GDP 成長率を前期比+0.6%、同年率+2.2%と予測。先週の予測(+2.6%)から小幅下方修正されているが、これは民間住宅、民間企業設備、民間企業在庫品増減の予測値が先週から下方修正されたためである。一方、主成分分析モデルでは好調な3月の全世帯家計消費支出の結果が反映されており、年率4.4%という高い成長率を予測していることに注意。3月の家計消費支出の結果から消費総合指数も高い結果が出ると予想されるため、来週の支出サイドモデルは3%を超える高い成長率が期待できる。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550